

[13] 太陽経病証（後ろの病）

(1) 基本的に：体の後ろ側に症状が出て、痛みが激しい

① 体の片寄った使い方が主な原因だが、体の内側の症状に因ることも多い

肩凝りなど上半身：手や目の片寄った使い方、上半身の病、食べ過ぎ、悪血証、欲求不満など
右利きで左肩コリ：心臓に負担が掛かりやすい人に多い

腰痛 など下半身：姿勢など体の片寄った使い方、瘀血証による腹の痞りや下半身の怪我など

② 古くなると、特定の場所に辛さや痞りが集中する

上半身の歪みは、肩峰から最初の窪みに向かう（ツボは、脇の下～上腕陰経！）

下半身の歪みは、膝の皿の周りに向かう（ツボは、膝裏～脹ら脛！）

③ 動くと痛いものより、動かなくても痛いものの方が重い。

④ 邪が入ると痛みが激しくなる（ピリピリビリビリ）

痞りだけだと痛まないこともある

(2) ツボの出やすい所、狙い目

① 患部&経絡的に関連する所など

・経絡関連

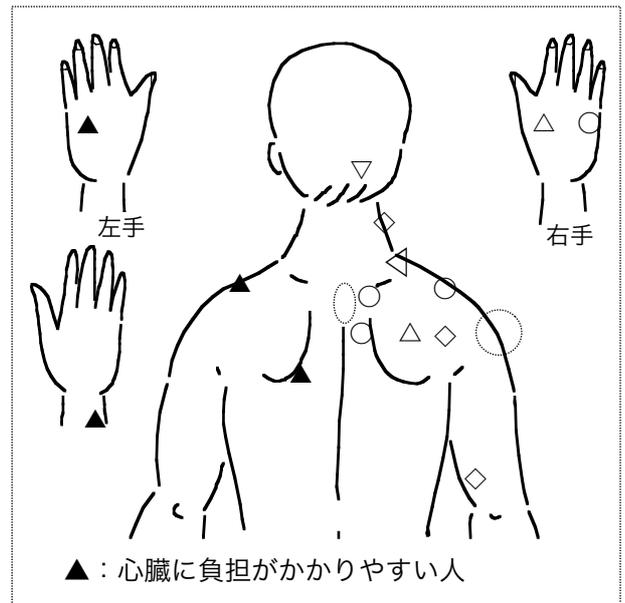
患部が上半身なら、手甲小指側、手甲～患部
（↑より正確には、肩甲骨鎖骨から上）

患部が下半身なら、足甲小指側、足甲～患部

・可動域制限や動作時痛

→その動作で伸びようとしている所

※詳しくは、運動器系急性期のまとめを参照



② 腹など患部以外&経絡的に関連するところ

便秘、食べすぎ、瘀血、カゼなどの原因も多い

例えば、カゼなどの場合、傷寒論に以下の記述

「太陽之為病、脈浮、頭項強痛而惡寒」

「太陽病、項背強几几、無汗、惡風、葛根湯主之」

ぶり返しが多いようなら、腹診なども大切！

体全体の歪み、古いツボの出やすい所も見る（参照：「慢性期の刺鍼手順」）

古いツボ：腹の12か所（左右章門、左右上下肓俞、五枢～維道、横腹4か所）

背の胸椎7-11華佗経、痞根、腰徹腹、足徹腹、脹脛など、古い打撲、手術痕など

(3) 手順：慢性期の型＋灸・灸頭鍼

① 慢性期の型（＋基本刺鍼＋動作鍼など）

② 慢性期診察＋手の陰陽

※初めは①、古いツボが特定したら②



灸・灸頭鍼

手順：座位→うつ伏せ→仰向け→手指

（横向き）

（糸状灸）